

播隆上人に想いを馳せて 北ア・笠ヶ岳

実施日 平成17年8月26日(金)夜行~29日(月)

曇り/晴れ

リーダー 涌井 良明

参加者 若村勝昭 佐藤金治 小野節子 馬場清士、
涌井良明、吉田勝教、島本陳重 計7名

コースタイム 26日 新宿都庁駐車場(22:00~22:30
バス)新穂高温泉行夜行バス

27日 新穂高温泉(6:00~朝食7:00)
笠新道入口(8:04~14)小池新道
入口(8:49~59)秩父沢(10:05
~15)イタドリが原(11:05~16)
シシウドが原(11:45 昼食~12;
16)鏡平小屋(13:15) 泊
(歩行時間5時間02分)

28日 鏡平小屋(6:50)弓折分岐(7:55
~8:10)大ノマ乗越(8:42)2660
mピーク(9:40~10:05)秩父平
(10:36~41)抜戸岳稜線(11:05
昼食~11:38)抜戸岳直下(12:
28~33)笠ヶ岳山荘(14:10~
20)笠ヶ岳山頂(14:35~50)笠ヶ
岳山荘(14:58) 泊
(歩行時間6時間20分)

29日 笠ヶ岳山荘(5:25)笠新道分岐(6:
34~46)杓子平手前(7:25~35)
杓子平(7:45)休憩(8:26~31)
休憩(9:05~12)笠新道入口
(10:35~48)新穂高温泉(11:40
~13:40 バス)松本駅(15:45
~16:59)八王子(19:05)新宿
(19:35)
(歩行時間合計5時間24分)

費用 交通費 バス・新宿 新穂高温泉 6,500円
松本BT 2,800円 / JR・松本
新宿 4,500円

宿泊費 鏡平小屋(2食付)8,500円 / 笠ヶ岳
山荘(2食付)8,700円

費用合計 ¥31,000

今回も前日まで台風の進路に気をもんだが、出発当日の午前中には天候が回復し、結果大変ラッキーな山行を行うことが出来た。

一年ぶりの夜行バスで新穂高温泉へ、今年のバスは古めでやたら窮屈であり、殆ど眠れないまま6時に新穂高温泉に着く。朝食後蒲田川左俣林道を行く、天候は台風一過とはいわずに一面のガス模様である、日差しが遮られて涼しいが上では晴れてほしいものである。

下りに使う笠新道入口で一息、丁度団体が登りにかかるころだった。小池新道に入り徐々に高度を稼ぐが時々



薄日も差すようになる。秩父沢で水を補給し沢を離れイタドリが原を過ぎ、シシウドが原の硬軟コース分岐で昼食にする。ガスは上がり気味であり登り口の林道方面が望めるようになってきたが、正面の

焼岳は顔を出してはいない。

ここからは山腹を絡み気味に緩く登りになり、木道のある熊の踊場という小さな湿地を越すと間もなく鏡平の池のテラスに着く、残念ながら槍、穂高の眺めはガスの中だった。13時過ぎには鏡平小屋に着き、のんびりと小屋前テラスの宴で過ごす、何と去年の槍ヶ岳のマドンナ4人組とまたも同日程で遭遇、大いに盛り上ったのは言うまでもない、食後の憩では槍の肩ノ小屋の灯りが望め、明日の天気を期待させる。翌28日明け方窓から月が見えたが、起きて見ると相変わらず一面ガスが漂っており、台風一過はどうしたのか?と、思わせる、昨晩の天気予報でも晴のみだったのに・・・とっ、ガスがぐんぐん上がり始め正面に槍の姿が顔を出し次いで穂高の稜線



も、あわててカメラ掴んで小屋裏の池のテラスに向かう、Oh my god!そこには素晴らしい景観が待っていた、昨年と同じ眺めであるがやはりうっとりする美しさで



ある。小屋に戻り槍の穂先を眺めながら朝食をとり、6時50分に笠に向けて鏡平を後にする。小屋前の木道から弓折分岐の稜線を目指して登る。昨日は気の早いナナカマド



の紅葉も見したがまだまだ花の姿も多く夏山の雰囲気である、また景色もガスの動きに合せ槍穂も着せ替え人形の様である、一期一会は山の言葉を実感する。1時間余りで弓折分岐の稜線に着き一息入れ昨年とは逆の笠方面に向う、15分程で弓折岳を通過するが、この頃にはガスも



殆ど消え、周りにはぐるっと北アルプスの山並の大展望である。眺めに気をとられなかなか足が前に進まない状態となってしまう



それほどの眺望であった。弓折岳から大きく下り大ノマ乗越を過ぎ 2660m ピークで休憩、歩いてきた山並とこれから迎える山にしばし見入る、30 分程でカール状

の秩父平へ一息後、抜戸岳の稜線までやや急な登りとなる。すっかり陽に照らされた登りは暑くきつかったが、着いた稜線の眺望はそれを直ぐに忘れさせるものであった。

もう見慣れてしまった槍穂から、双六岳方面、どっしりと風格の三俣蓮華岳、何か可愛げなピークに見える黒部五郎岳、等々北アの峰を眺め放題の贅沢に訳もなく嬉しさを感じる。この贅沢を味わいながら昼食をとり、抜戸岳への稜線の登りに備える。



ひと登りで抜戸岳山腹をトラバースするように続く登山道の先に恥ずかしそうに雲に隠れながら笠ヶ岳が見える。それほど登降もなく、眺めも良く歩き易そうだ。



抜戸岳の山頂は西側をパスしてその先にある笠新道入口の分岐を過ぎると、左下に杓子平のカールが見える、旧笠新道入口(崩落危険で99年から通行禁止)を過ぎ、笠本峰の姿も大きくなり山頂直下の笠ヶ岳山荘もはっきりしてくるが、まだ以外と登らなくてはならない、そう簡単にはいかないぞとされている様である。

途中小雨もあったが、山荘直下のキャンプ指定地を抜け岩礫上のペンキ印に促されて登りきると笠ヶ岳山荘に着く。チェックイン後、空身で山頂へ向かう。岩の積み重なった道を 15 分程で 2898m 笠ヶ岳山頂だった。



遮るもののない眺めが広がるが、何と言っても東側に立ちのぼる槍から穂高に連なる山並みに圧倒される。新田次郎の「槍ヶ岳開山」に描かれた播隆上人がここ

から見た屹立する槍の穂先に魅せられ開山を決意したとされる同じ頂から、自分も槍を眺めたいと思い続けていた笠ヶ岳にいると思うと何か感慨深いものがあった。

去りがたい想いで山頂を辞して山荘に戻りビールで喉を潤した。

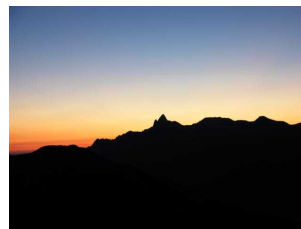
トップシーズンを過ぎた日曜日にも拘わらず、小屋はほぼ満員、深田百名山人気の凄まじさを感じる。百を避けない限り静かな山なんて味わえないのだろうか？あとは小屋を逃げてテント山行かな・・・

てな具合で、当パーティは 17:45 から二回戦目で夕食を済ませ(3 回戦までであった)本日の行事もオワリ・・・あつままだキジいかなくちゃ(-_-)

明けて 29 日 4 時頃起床、外に出てみる、ウッ！さぶー、出入口の温度計は 5 だった、でも今朝は快晴でまだ一面の星空である、もうオリオン座も見え始め秋の空に変わりつつある、寒いわけだ。と妙に納得してしまう。

目の前には槍・穂の稜線が明け行く空に巨大なシルエットで聳えている。

早くもごった返す小屋に戻ると、さすが我パーティ先着順の朝食に早めに並んでくれていた佐藤さんのおかげで、30 分も早く食事にありつけた、有難うございました。



5:25 小屋を後にする、下り始めて直ぐに大喰岳と中岳の中間辺りから陽が昇る、しばし美しさに見とれる。笠新道入口までは昨日と同じ道を引き返す、ノンストップで新道分岐へ、小さく

登り抜戸岳の稜線をまたぐとカール目掛けて一直線に下る道になる、1 時間程で杓子平へ、振り返ると杓子平のカールから笠山頂へと雄大な風景が広がっている。うーん素晴らしいですね！と、これで見納め。

ここから左(東)へ直角に尾根を乗越した瞬間から笠ヶ岳は視界から完全に消えてしまう。

後は左俣林道までひたすら下るのみである、正面に穂高の稜線を見ながら岩っばい道を下る、結局この岩っばい下り道は延々と続くのが笠新道の下りだった、何とも膝にはつらい道である。

途中 2 回程休憩を挟み 10 時 35 分全員が林道に降り立つ、充実した気分で林道を戻り 11 時 40 分新穂高温泉で今回の歩きは終了した。



台風一過というツキもあったが、絶妙な天候にも恵まれ、つらさも楽しさも、北アの雄大さや山岳美も満喫できた贅沢な山行だった。同行してくれた皆様の協力に感謝します、有難うございました。